

# 平成26年度若者支援プロジェクト取組方針(概要)

## 1 基本的な考え方

### (1) 現状・課題

ア 東日本大震災津波以降、若者の意識において、「住んでいる地域が好き」な傾向が9割以上となるなど、「故郷に対する思い」が強まっている。また、県外からは、復興支援の各種ボランティアやイベント等のための来県のほか、いわゆるあまちゃん効果による本県への関心の高まりや交流人口の増加という波及効果も生じている。(これらを新たなチャンスと捉え、若者の活動を支援する施策をアグレッシブに推進)

イ マンガやデジタルコンテンツをはじめとする新たな文化の創造、ユニークな地域づくり、地域資源を活かした起業や商品開発、豊かな農林水産物を素材とした新たなビジネスモデルの創出など、様々な分野で多くの若者が目覚ましい活躍をしている。(地域の若者が持つ潜在力を引き出していくこと)

ウ 本県には大学、短期大学のほか、多彩な分野の専門学校等も立地し、県内はもとより他県からも多くの若者が学び、様々な分野での活動の素地が形成されてきている。スキルと意欲をもった若者を地域に送り出す源泉になっていると同時に、色々な産学官連携組織の活動(INSなど)、ロック音楽祭や技術展、美術デザイン展、いわてマンガプロジェクトなどの文化や学術の発信源にもなっている。(これらの高等教育機関の有する機能役割と有機的に連携)

### (2) 方向性・コンセプト

ア【方向性】若者の流出防止や定着支援の取組のみならず、若者自身に内在するパワーを引き出し、更に個々の若者を有機的に連結、ネットワーク化することにより、若者が行動するための大きなエネルギーとして増幅させ、新たな岩手の魅力(ソフトパワー)を形づくる。県はいわば触媒的な役割・アプローチを果たし、結果として若者が「ここで暮らしたい、岩手に訪れてみたい」と思えるよう取り組む。

イ【コンセプト】地域社会、学び・暮らし、仕事の中で、多様な主体・世代間の連携、ネットワークにより若者が主役になって躍動し、自己実現を果たすことが、若者や文化を中心とする地域振興、すなわち「クリエイティブいわて」の実現であり、ひいてはすべての世代が元気な地域社会につながる。

### (3) 行動計画

県の取組内容を政策パッケージ化し、平成26年度のアクションプラン「若者支援プロジェクト」を推進

## 【参考】本県の若者の意識・行動(H24岩手県青少年意識調査より)

区分	少年(中学生)		青年(20~24歳)	
	H21	H24	H21	H24
今住んでいる地域が好き	88.8%	90.0%	85.9%	90.6%
地域活動・社会活動(祭り、ボランティア等)に参加	88.9	88.6	52.8	54.7
(将来の夢)自分の個性・能力を活かしたい	47.7	47.2	31.0	37.6
( )社会に貢献したい	25.1	30.6	9.9	15.4
( )好きなことをしてのんびり暮らしたい	38.5	38.9	58.5	48.7
( )家族と幸せに暮らしたい	27.4	36.8	44.4	41.0

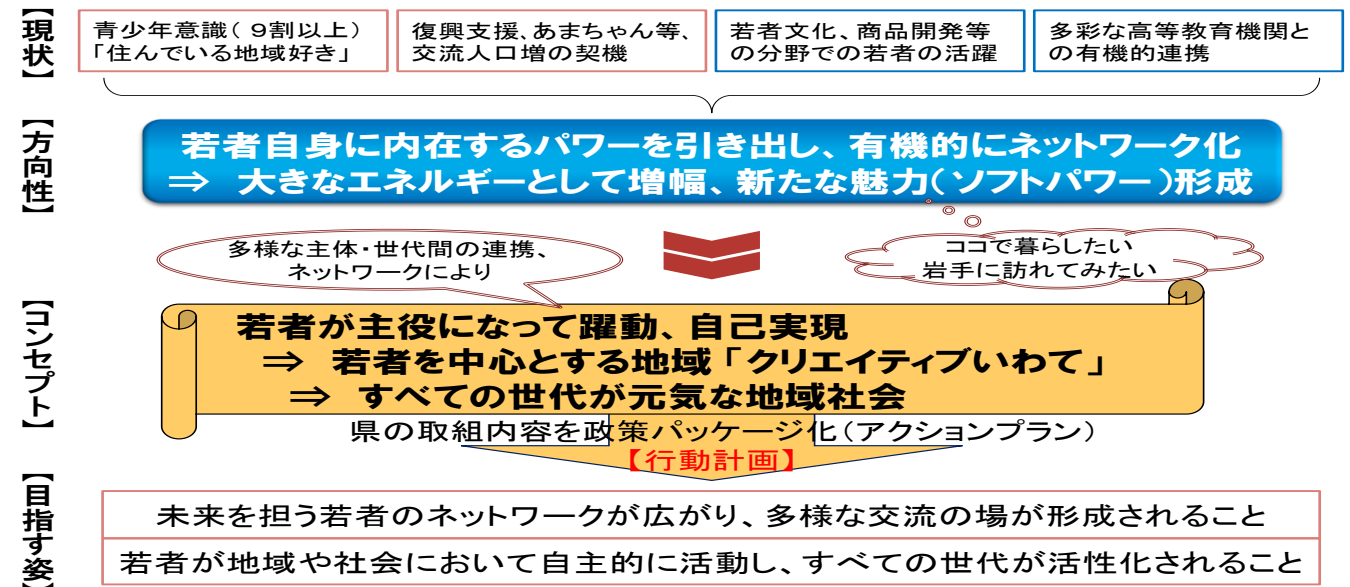
## 2 目指す姿等

### (1) 目指す姿(目標)

- ア 未来を担う若者のネットワークが広がり、多様な交流の場が形成されること
- イ 若者が地域や社会において自主的に活動し、すべての世代が活性化されること

## 【基本的な考え方・イメージ】

### H26「若者支援プロジェクト」の基本的な考え方



## 3 中核的な取組とねらい

### (1) リアル、バーチャル双方での若者の交流とネットワーク形成の場づくり

- ア 「いわて若者会議(全県版)」の継続開催
- イ 地域における若者ネットワークづくりの展開
- ウ インターネットによる若者の継続的な交流の場づくり

### (2) ユニークな若者らしい構想実現に向けた支援

- ア 地域若者団体等の構想事業化の促進
- イ 県庁若手職員による若者目線の政策推進

### (3) オール岩手で若者を応援する体制づくり

- ア 「若者応援団」による若者支援
- イ 事業者、団体、市町村との連携による若者の活動支援

### (4) 岩手の若者の活躍を内外に情報発信

- ア インターネット動画、SNSによる情報発信
- イ 統一ロゴ・マークの使用

### (5) 各施策分野での若者支援施策の体系的・重点的な展開

若者支援プロジェクトの施策体系【別紙参照】



## 4 庁内の若者施策推進体制

- (1) 庁内若手職員による若者施策研究会(若手ゼミ)の継続
- (2) 部局連携による推進体制(庁内CFT等)の確立